

Vol. 2
2014年
春・夏号

上町台地 今昔タイムズ

企画・編集：U-CoRoプロジェクト・ワーキング 発行：大阪ガス エネルギー・文化研究所（CEL）
問合せ先：tel.06-6205-3518（担当：CEL 弘本）※U-CoRo=ゆーころ（上町台地コミュニケーション・ルーム）
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/ucoro/index.html>

「上町台地 今昔タイムズ」とは

わたしたちが暮らす「上町台地」。古代から今日まで絶えることなく、人々の営みが刻まれています。天災や政変や戦災も、著しい都市化も経験しました。時をさかのぼってみると、まちと暮らしの骨格が浮かび上がってきます。自然の恵みとリスクのとりえ方、人とまちの交わり方、次世代への伝え方…。過去と現在を行き来しながら、未来を考えるきっかけに、U-CoRoプロジェクト第2ステップでは、壁新聞「上町台地 今昔タイムズ」を制作いたします。

■歩いていけた！ 見晴らせた！ 近世の郊外

江戸期から明治中頃までの300年近く、大阪は現在のJR大阪環状線が囲むまちより、さらに小さな都市でした。ただ、小さいとは言え、近世・近代の国内外有数の大都市でもありました。まちづくりでの近年の流行語だった「コンパクトシティ」。中心部から小1時間も歩けば街外れ＝郊外に到達できた往時の大阪は、その言葉の实在でもありました。そこに広がる自然、大阪湾や田園広がる大阪平野を見渡す眺望に、都心での集住で肩も凝る町衆はホッと一息付いていたことでしょう。



②「産湯味原池」(芳雪画)

江戸時代、味原池の周辺は一面の桃畑。桃花の盛りの時期には、大勢の老若男女が繰り出した。

③「高津」(芳瀧画)

上町台地の断崖上に鎮座する高津宮の境内からは六甲の山なみや須磨の浦までが眺望できた。



浪花の町衆が親しんできた 近郊の豊かな自然と 雄大な景観

「自然」「リゾート」「眺望」といった言葉は、都市から遠い空間のように思われますが、つい100年ほど前までは、それらが大阪の都心…大坂三郷から歩いてすぐのところにありました。都心暮らしの先達である近世・近代の浪花の町衆は、平野に浮かぶ上町台地の地理的特性が生み出した豊かな自然や雄大な景観に、日常の暮らしのなかで親しんできました。現代の大阪では想像もつかない豊かな日常の一端を、垣間見ていきましょう。



江戸時代末 「浪花百景」

「浪花百景」より
(安政年間(1854～60年頃) / 大阪府立中之島図書館所蔵)



①「錦城の馬場」(国員画)

大坂城の西側には馬場と呼ばれる芝生が広がり、風揚げの名所として知られていた。



⑩「河堀口」(芳雪画)

床几に座って、うちわで螢火を追う、夏の夕涼みの様子。子どもたちは螢狩りに夢中。



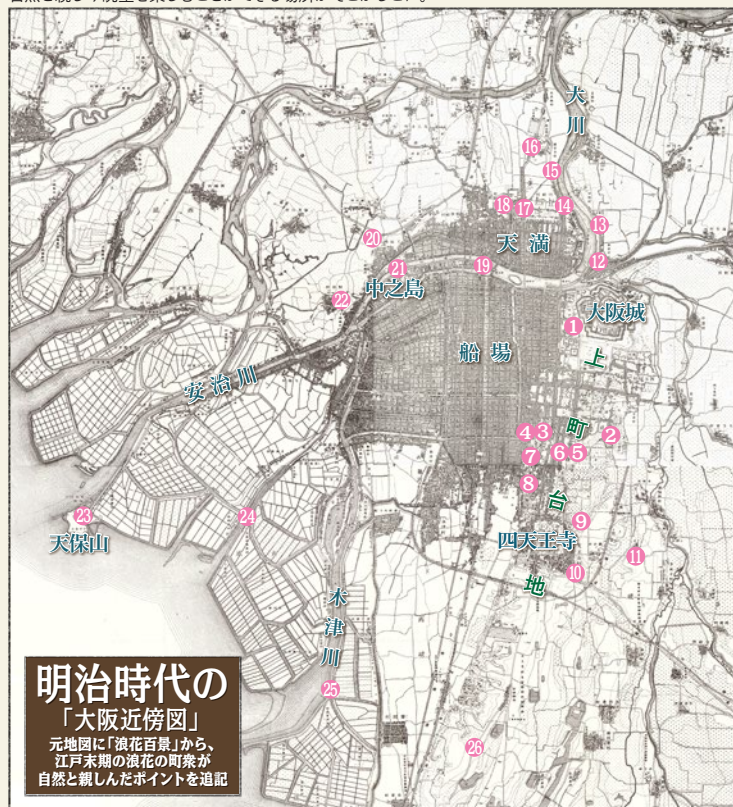
⑫「天保山」(芳雪画)

安治川浚渫工事で出た土砂を積み上げた山上からの眺めや水辺の風景が大人気を呼んで、灯籠や棧敷も設けられた。

⑪「御勝山」(芳雪画)

大坂の陣で2代将軍徳川秀忠が本陣を置いたことからこの名がついた。田畑に囲まれ、花の季節などに賑わいを見せた。

江戸～明治期の大阪では、市街地を縁取るように、上町台地沿いや川辺や海岸など、自然と親しみ眺望を楽しむことができる場所がそこかしこに。



「浪花百景」に描かれた行楽地や景勝地など

- ① 錦城の馬場 (風揚げ)、② 産湯味原池 (桃花)、③ 高津 (眺望)、④ 吉助牡丹盛り (ボタン)、⑤ 野中観音桃華盛り (桃花)、⑥ 梅やしき (梅花)、⑦ 生玉絵馬堂 (眺望)、⑧ 西照庵月見景 (紅葉)、⑨ 寿法寺 (楓)、⑩ 河堀口 (行楽)、⑪ 御勝山 (行楽)、⑫ あみ嶋風景 (景勝)、⑬ さくらの宮景 (桜)、⑭ 源八渡し口 (梅林、桜)、⑮ 天満樋の口 (桜)、⑯ 寛満寺之夕景 (糸桜)、⑰ 北妙けん堤 (行楽)、⑱ 堀川備前陣屋 (桜)、⑲ 浪花橋夕涼 (夕涼み)、⑳ うらえ杜若 (カキツバタ)、㉑ 鮎の松夜の景 (老松)、㉒ 野田藤 (藤の花)、㉓ 天保山 (景勝地)、㉔ しりなし漆づみ甚兵衛の小家 (ウリン、潮干狩り)、㉕ 木津川口千本松 (松原)、㉖ 住吉岸姫松 (松原)

※地名等の表記は原版にもとづく



明治時代の 「大阪近傍図」

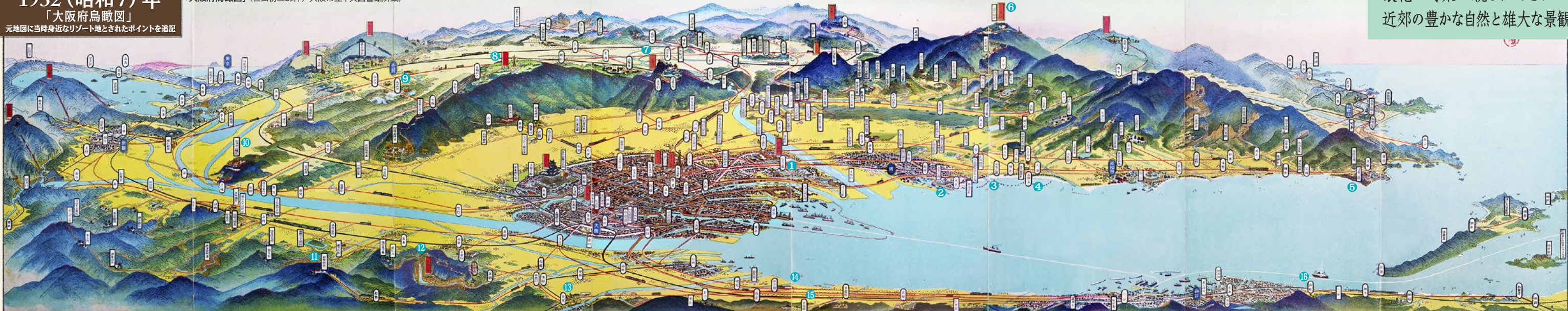
元地図に「浪花百景」から、江戸末期の浪花の町衆が自然と親しんだポイントを追記

1932(昭和7)年

「大阪府鳥瞰図」

元地図に当時身近なリゾート地とされたポイントを追記

「大阪府鳥瞰図」(吉田初三郎作/大阪市立中央図書館所蔵)



■都市近郊に出現した近代的リゾート

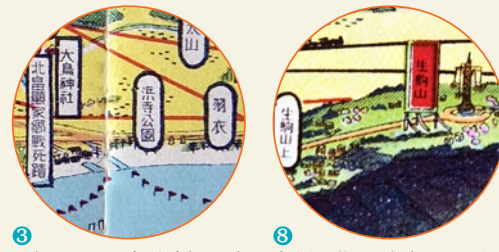
明治の終わり頃から大阪のまちは郊外へ広がりはじめます。それでも都市と周囲を囲む田園・海浜地帯との境が明瞭だったこともあり、都市の縁辺には自然に親しめる場所がたくさんありました。そうした場所のなかには、近代化・西洋化の波を受けて、海水浴場や遊園地などリゾート地と呼べるようなものも現れてきました。当時のリゾート地は堀に囲まれた別世界ではなく、まさに近郊の自然のなかにありました。それらは電車で15～20分で着ける、身近な存在でもありました。



11 甲子園浜海水浴場(1932(昭和7)年/阪神電気鉄道所蔵)
1924(大正13)年の甲子園球場完成から、郊外住宅地・リゾートとしての甲子園開発が始まる。海水浴場も1925(大正14)年にオープン。



3 浜寺海水浴場(大正～昭和初期/堺市立中央図書館所蔵)
1906(明治39)年開設の海水浴場には、1914(大正3)年から「海上ブランコ」などの遊具も登場(写真は「海上遊動門木」)。



3 浜寺公園は1873(明治6)年に日本最古の公立公園として開園。大正～昭和初期に周辺は別荘地となり、夏は海水浴場として賑わった。
8 生駒山上遊園は、標高642mの山頂周辺に1929(昭和4)年に開園。現存する国内最古の飛行塔からは大阪平野や大和盆地・山城盆地が一望に。



9 のちの近鉄あやめ池遊園地。1926(大正15)年に大阪電気軌道が建設し、78年の歴史を経て2004(平成16)年に閉園。



12 箕面公園は、古くから紅葉と滝の名所。1910(明治43)年に箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄)の箕面線が開通し、賑わいを増した。



14 阪神電気鉄道は1926(大正15)年に甲子園～浜甲子園の甲子園線を敷設(1975(昭和50)年に廃止)し周辺開発を進めた。



16 箕面有馬電気軌道が1910(明治43)年に梅田～宝塚間を開業。翌年、宝塚新温泉が開業し、後年、のちの宝塚歌劇も生まれた。

■戦後もまだ楽しめた
大阪平野のなかの自然空間

昭和初期の「大大阪時代」は戦災で灰燼に帰しましたが、めざましい戦後復興は都市の暮らしも戦前以上に豊かにしていきました。その一方、団塊世代が子どもの頃、復興した大阪のすぐ外側には水と緑の空間がまだ広がっていました。ウサギ狩りや川遊びといった自然のなかでの楽しみが、都市の日常の暮らしにまだ溶け込んでいました。高度経済成長期へ移行するほんのつかの間。浪花の町衆がまちのすぐ外の自然と、日常のなかで触れあっていた最後の時でもありました。



宝塚にて(1956(昭和31)年/吉見良子さん提供)

懐かしい遠出の思い出①

コメントをお寄せいただいた方

- (A) 吉見孝信さん
※いずれも昭和30年代半ばの記憶
(B) 吉見良子さん
※いずれも昭和30年代半ばの記憶
(C) 岡 憲夫さん
※いずれも昭和30年代前半の記憶
(D) 富士原純一さん
※いずれも昭和40年代前半の記憶
(E) 河合清司さん
※いずれも昭和30年代前半の記憶

※(F)～(H)は4面に記載



小学生も参加したウサギ狩りの様子(撮影年不詳/大阪くらしの今昔館展示室より)

父が宝塚歌劇の大ファンだったので、宝塚へよく連れて行ってもらっていました。(B)

当時の宝塚も花の道はにぎやかでしたが、遊園地から少し外れると田舎のような景色でした。(B)

遊園地で遊んで、歌劇を見て、温泉に入って、ご飯を食べて、家族で一日過ごしました。(B)

京阪八幡市駅のそばの木津川に游泳場がありました。遠浅で流れも緩く、何度も連れて行ってもらいました。(E)



木津川の八幡水泳場にて(1958(昭和33)年頃/岡憲夫さん提供)

昭和20～40年代
懐かしい遠出の思い出

小学校の遠足でウサギ狩りに行きました。枚方の少し先の駅で、文字通りの姿形の猟師さんが待っていました。(A)

ウサギ狩りの記憶は薄れましたが、枚方の先は田舎という野山だったように覚えています。(A)



生駒山上遊園(撮影年不詳/東北大学附属図書館所蔵)
人気を呼んだ飛行塔(1929(昭和4)年完成)と大すべり台。



昭和の初め頃のいも掘り遠足(1932(昭和7)年/大阪くらしの今昔館展示室より)

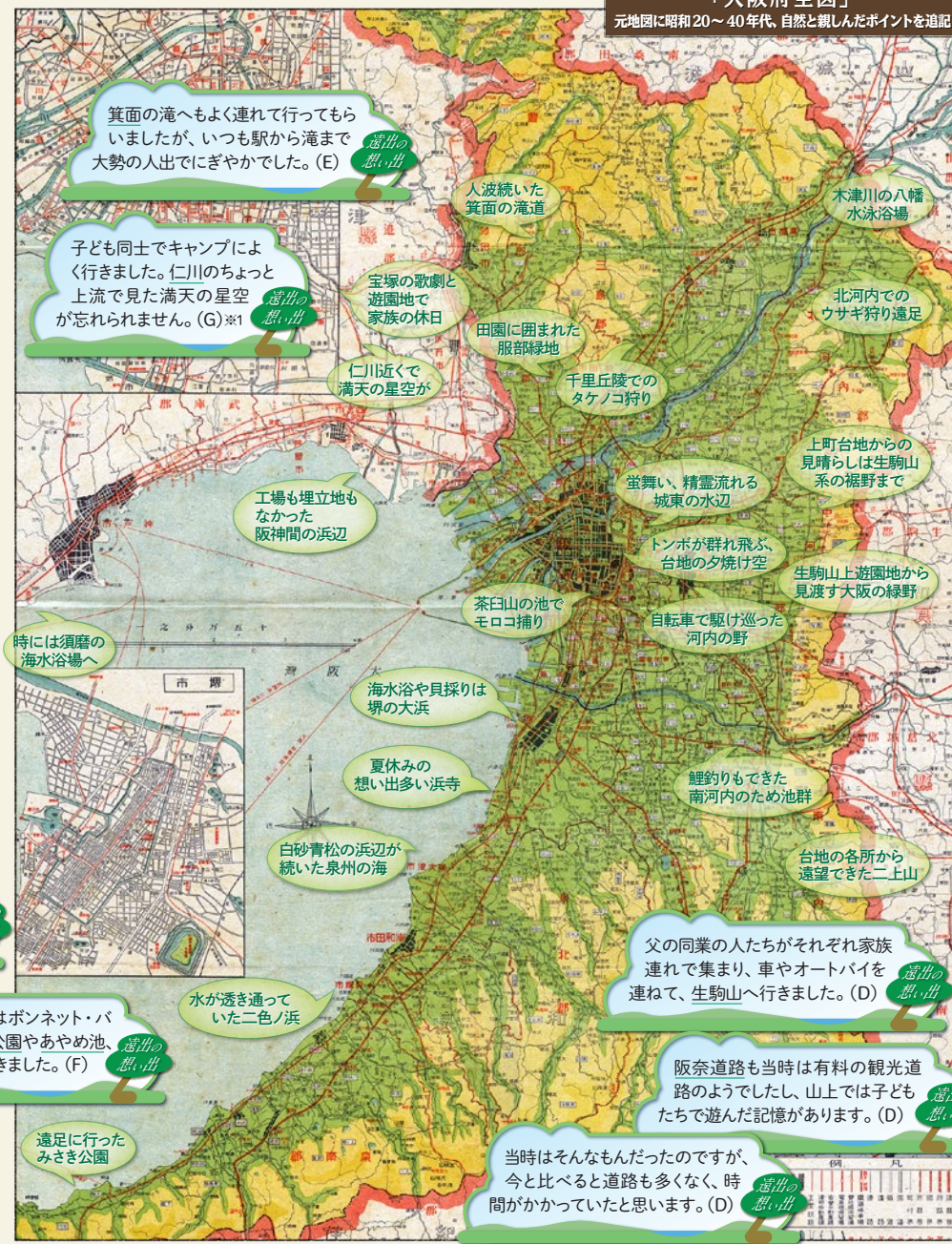
遠足で行く服部緑地のまわりも自然が一杯で、近くの駅を降りて少し歩くと、もう緑地で田畑のなかでした。(E)

小学校から天満橋が始発駅だった京阪電車に乗って、八幡市駅近くの木津川の八幡水泳場へ行きました。(C)

木津川の川べりに海の家のような小屋がいくつか並んでいて、そこで着替えて泳ぎました。(C)

1946(昭和21)年
「大阪府全図」

元地図に昭和20～40年代、自然と親しんだポイントを追記



箕面の滝へもよく連れて行ってもらいましたが、いつも駅から滝まで大勢の人出でにぎやかでした。(E)

子ども同士でキャンプによく行きました。仁川のちよつと上流で見た満天の星空が忘れられません。(G)※1

宝塚の歌劇と遊園地で家族の休日

工場も埋立地もなかった阪神間の浜辺

時には須藤の海水浴場へ

海水浴や貝採りは界の大浜

夏休みの思い出多い浜寺

白砂青松の浜辺が続いた泉州の海

遠足に行ったみさき公園

人波続いた箕面の滝道

宝塚の歌劇と遊園地で家族の休日

田園に囲まれた服部緑地

千里丘陵でのタケノコ狩り

茶臼山の池でモロコシ摘み

海水浴や貝採りは界の大浜

夏休みの思い出多い浜寺

白砂青松の浜辺が続いた泉州の海

遠足に行ったみさき公園

木津川の八幡水泳場

北河内でのウサギ狩り遠足

上町台地からの見晴らしは生駒山系の裾野まで

宝塚の歌劇と遊園地で家族の休日

工場も埋立地もなかった阪神間の浜辺

時には須藤の海水浴場へ

海水浴や貝採りは界の大浜

夏休みの思い出多い浜寺

白砂青松の浜辺が続いた泉州の海

父の同業の人たちがそれぞれ家族連れで集まり、車やオートバイを連ねて、生駒山へ行きました。(D)

阪奈道路も当時は有料の観光道路のようでしたし、山上では子どもたちで遊んだ記憶があります。(D)

当時はそんなもんだったのですが、今と比べると道路も少なく、時間がかかっていたと思います。(D)

昭和20～40年代 懐かしい遠出の思い出

高台になった三光神社や陸軍墓地からは城東線(現JR大阪環状線)がずっと見えていました。(H)



高津宮の舞台にて、
今と違い高い建物が見えない
(1953(昭和28)年/吉見良子さん提供)

懐かしい遠出の思い出 ②

コメントをお寄せいただいた方

(F) 鈴木一男さん

※いずれも昭和30年代前半の記憶

(G) 社納通博さん

※1 昭和40年頃の記憶

※2 昭和30年代半ばの記憶

(H) 吉岡 武さん

※いずれも昭和20年代半ばの記憶

※(A)～(E)は2面に記載



大浜公園にあった堺水族館の前で遠足の記念撮影
(1955(昭和30)年頃/鈴木一男さん提供)

■ まちなかから遠ざかる郊外と自然空間 都市の未来は

この半世紀余、郊外の丘陵地はニュータウンに、白砂青松の海辺はコンビナートに変わり、大阪平野の田園風景はスプロール開発の波間にほぼ消えました。都市近郊の豊かな自然は1時間超の彼方へ離れ、人工によるわずかな川辺や公園の緑が、現代の日常にある「自然空間」とされています。私たちは都市を無限に広がる圏域と高さを競うビル群と捉え、それを進歩と思い込んできました。しかし、先達たちが継承してきた都心暮らしと自然との調和を実感できなくなりました。都市の未来を考えると、私たちが本来継承していくべきだったものも振り返ってみませんか。

1955(昭和30)年

発行の大阪市街地図(部分)

元地図に昭和20～40年代、自然と親しんだポイントを追記



釣りは大阪城の堀にも行きましたが、藤井寺のあたりにあった鯉釣り池にも連れて行ってもらいました。(G)※2

生駒山の山並みはもとより、遠くの二上山もくっきりと見えていたことを覚えています。(H)

真田山あたりでは夏の夕暮れになると、ギンヤンマの大群が東から西へ毎日飛び去っていきました。(H)

虫捕りは紅葉寺や茶臼山で、茶臼山の池では仕掛けを使ってモロコ捕りもよくしました。(G)※2

小学校の夏休みは、両親が浜寺にアパートを借りてくれて、海水浴三昧でした。父は毎日通勤でしたが(笑)。(G)※2

昭和20年代は堺の湊や大浜が海水浴場でした。大浜では貝もたくさん採った記憶があります。(H)

浜寺の海水浴場は進駐軍専用になっていたの、手前の堺が浜寺以南で泳いでいました。(H)

当時の浜寺は真ん中のエエとこは進駐軍専用で、私たちが泳ぐのはその外でしたが、そこもキレイでした。(G)※2

浜寺には進駐軍専用の海水浴場もあり、バーベキューしている様子などが金網越しに見えました。(F)

浪花の町衆が親しんできた 近郊の豊かな自然と雄大な景観

生駒山麓まで見渡せた玉造稲荷神社舞台
(1959(昭和34)年/牧村史陽氏撮影、鈴木一男さん提供)

玉造稲荷神社の境内からは生駒山の麓まで一望でしたし、石切への坂を登る近鉄電車の灯りも見えました。(F)



玉造稲荷神社境内にあった舞台(1871(明治4)年再建、撮影年不詳/鈴木一男さん提供)

川遊びに通った猫間川や平野川ではホタルも飛び交い、盆の精霊流しもにぎやかでした。(F)

JR大阪環状線の電車の音は聞こえませんが、当時の城東線の汽笛や列車の音はよく聞こえました。(F)

海水浴では叔父さんに浜寺へよく連れて行ってもらいました。高校になって友達と須磨へも行きました。(A)



二色ノ浜の岩場にて
(1959(昭和34)年/吉見良子さん提供)



水が澄んでいた二色ノ浜海水浴場
(1958(昭和33)年/吉見良子さん提供)

海水浴は浜寺へよく行きましたが、須磨浦へ連れて行ってもらったときはちょっとエエとこへ行く気分でした。(F)

諏訪ノ森、浜寺、高師浜、助松ときれいな浜辺が続いていました。二色ノ浜では水が透き通っていました。(H)

あべのハルカス

通天閣

WTC

大阪城

大阪駅

グランフロント大阪



東大阪市上石切の公園から西を望む 2014(平成26)年2月撮影

現在の大阪市街遠望

60年ほど前までは大阪平野の浮島のような大阪市街。今は生駒の山裾まで、建物の海になっています。